

教育者としての「使命感」・「人間愛」・「創造力」を有する教員の養成を目指す

2017

秋

No.38

JUEN

【ジュエン】

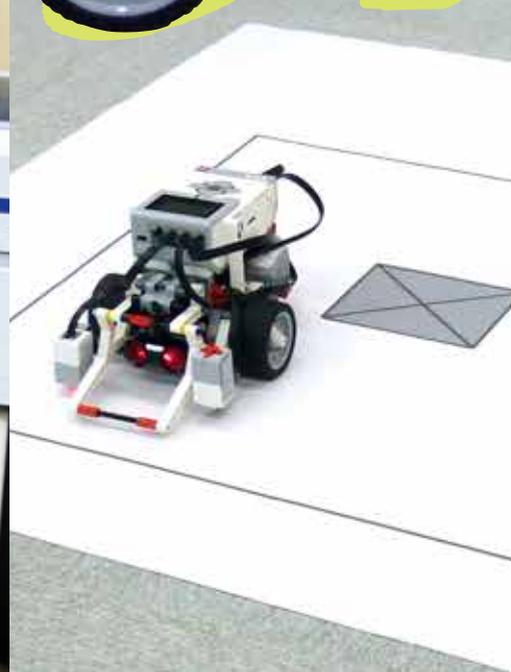
Joetsu University of Education

国立大学法人
上越教育大学
Joetsu University of Education

学園だより

〔特集〕 つくる・学ぶ・活かす

情報メディア 教育支援センター



より一層開かれた学校への
改善が図られる方策を



研究室

へようこそ

カリキュラム開発は創造性が必要

私の専門はカリキュラム開発と評価、カリキュラムマネジメントです。カリキュラムとは、学校が教育目標に向かって作った計画のことですが、近年、教育課程の基準の弾力化によって、全体視野で学校計画を俯瞰できる効果がある、カリキュラム開発と評価の次世代の新たな形が求められています。型にはまらないことは私のカリキュラムデザインのモットーです。その在り方を模索することも私の使命です。

私が注目しているのは、教育的ニーズを把握し、そのニーズに応じて学習意欲を高め、潜在能力を発揮できる学校自発の特色があるカリキュラム開発です。これからは、教員の能動性、創造性を発揮し、主体的にカリキュラム開発に取り組むことが重要であり、これらのニーズ・アクセスメントの情報をカリキュラム開発に反映させ、より一層開かれた学校への改善が図られる方策を探っていきます。

ゼミ生と一緒に研究進度、目標を設定します

研究テーマはカリキュラム研究をベースに、院生の興味関心を引き出しながら、一人ひとりに

の現状に合う研究、特に、将来の夢と目標を融合できるように時間をかけて決めます。卒業後、就職しても、研究室での研鑽のプロセスを通して鍛えられた集中力、忍耐力、創造性を活かせることを目標にしています。

なぜ上越で学ぶほうがよいか

三年前上越に赴任して一か月後、すぐ豪雪の季節になり、雪下ろしが大変だなと思いましたが、今まで関東で吸ったことがない澄み切った空気を毎朝、深呼吸して、体がいいと感じながら、幸せな気分でした。不思議に二年目からは、この冬化粧の幻想的な一面銀世界をただただ眺めて冬を楽しんでいます。上越の景色の美しさは息をのむほどで、人間が住む世界と別次元ではないかと錯覚も覚えて、感動ですらありました。上越市は美しい山、日本海に囲まれて、心が静まり、勉学に最適な環境です。



野澤有希(のざわゆき) 学校教育研究科グローバル・ICT学習研究コース 准教授

中国上海出身。大学を卒業後、国立吉林大学で日本語の専任講師。17年前に来日のため退職、筑波大学大学院人間総合科学研究科修士課程、博士課程学校教育専攻単位取得満期退学。平成26年10月に本学に着任。専門はカリキュラム論。カリキュラム開発と評価、およびカリキュラムマネジメントを研究。



すべてをチャンスに! 欲張る4年間を。

小学生の頃、卒業文集に「将来の夢は学校の先生」と書いたことを今でも覚えています。先生になる勉強がしたい!たくさん子どもと関わりたい!と思いこの大学に入学しました。しかし、4年間ってとても長いのです。勉強だけではつまらないし、もっと色々なことに欲張って自分を磨かなくてはと思いました。そこでわたしは、大学祭の執行部や学びのひろば、アルバイト、部活動や学生寮の自治会など様々なことに積極的に参加し充実した学生生活を送っています。

今年で卒業ですが、全ての経験が自分の教職観と結びつき、子どもに語れる豊かな体験となっている気がします。せっかくの自分のための4年間。欲張って自分の強み作りの日々です。

子どもと触れ合って初めて気付く

どれだけ大学の講義で知識を理解しても、スッと自分の腑に落ちるのは、実際に子どもと関わったときだなと思いました。机上の内容を知識だけで終わらせないことは大切です。上教大では、子どもと関わる時間がたくさんあります。教育実習、学校ボランティア、学びのひろばなど実際に子どもたちと関わってたくさんの元気と、大きな学びを受け取っています。

また、わたしは学びのひろばの事務局にも入り、保護者の方ともお話をする経験や教育委員会に何う経験を積むことも出来ました。このエピソードは教員採用試験の武器にもなりました。

入学したときの信念を貫いて

冒頭でも書きましたが、4年間は長いですが、友人とたくさん遊んで、さまざまなことに挑戦しながらも深く学び、自分を見つめ直すことができています。絶対に先生になりたい!という気持ちとわたしの夢をずっと応援してくれている両親の想いだけは忘れずにこれからも頑張っていきたいです。

※学びのひろば

「学びのひろば」は、平成10年度に上越教育大学フレンドシップ事業の一環として始まり、「学生が子どもたちとふれあい、子どもの気持ちや行動を理解し、教員としての実践的指導力の基礎を身に付ける」ことを目的に実施してきた事業です。

活動の企画・運営は、すべて学生が中心となり、所属する9つのクラブが「子どもたちの笑顔」のため徹底的な議論を重ね、年7回の活動日に、近隣の小学校に通う子どもたちとレクリエーションや野外活動、工作、運動、2泊3日の宿泊活動などを実施しています。



学部4年
言語系コース(国語)
藤平はづきさん

つくる

機材充実！様々なものが作れます！

情報メディア教育支援センターでは、教育研究活動での利用を目的とした各種機器を備えています。積極的に活用しましょう！

作

活かす 学ぶ つくる

情報メディア教育支援センター

特集



熱溶解積層式卓上型 3Dプリンター

3Dプリンターの主流の方式です。色つきの樹脂を使用すればカラフルなものを作成することができます。



光造形式卓上型 3Dプリンター

熱溶解積層式とは違う方式で、立体物のデータをもとに立体造形物を実体化・可視化できます。



捺染プリンター

専用ソフトを用いることで、比較的簡単にオリジナルTシャツなどが作成できます。



レーザーカッター (レーザー加工機)

利用する場合は事前に講習を受けなければなりません。



オリジナルデザインのネームプレート、コースター、ペンスタンドなどを作成することができます。



大判プリンター

白い文字が印刷できるレーザーカッターもありません！



学会のポスターセッションの資料や大学行事の横断幕の作成で利用できます。

利用者の声

島崎 貴子さん

大学院2年
生活・健康系教育実践コース
(技術)

私は、研究活動で情報演習自習室にあるレーザーカッターを使わせてもらっています。レーザーカッターは、プラスチックや木材、布地等の材料の切りだし、彫刻ができます。設計図は、パワーポイントやワード等の身近なソフトで作成できるため、とても便利です。加工の様子は目視でき、レーザーカッターの緻密さ・精密さを間近で見ることができます。部屋は落ち着いた雰囲気です。また、機が常設してあるため、団体での活動にも対応できます。

当センターは
2018年10月1日で
25周年を迎えます！

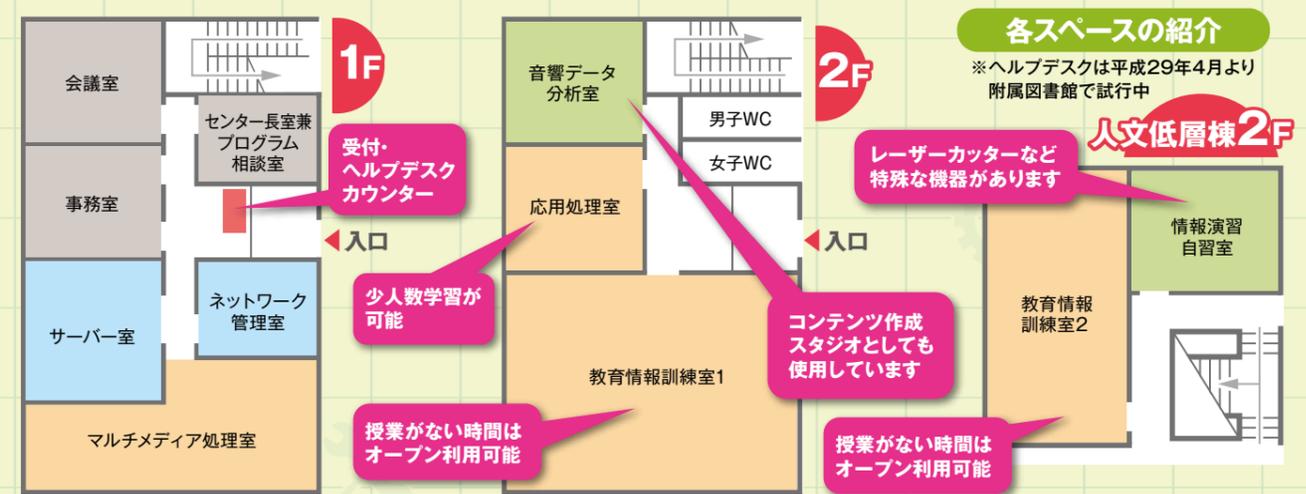


センターでは、月1回程度スタッフ会議を開催して、センターの運営等について意見交換や情報共有を行っています。

主要システム
キャンパス情報システム
キャンパススクラウドシステム
認証キャンパスネットワークシステム

スタッフ
センター長 1名
センター教員(兼務) 4名
センター事務(ヘルプデスク含む) 4名

情報メディア教育支援センターは、本学の情報システム及び情報ネットワークの管理・運用をおとして、学生・教職員のICT活用を図り、また、情報教育を総合的に推進することを目的とした学内共同利用施設です。



各スペースの紹介

※ヘルプデスクは平成29年4月より
附属図書館で試行中

人文低層棟2F

今年もやってきました！

学祭

SAKUCU

SAI

～学祭特集～



質問内容

学祭への思いを聞かせてください!!

- 1 所属部活(一つ)と学祭での出し物
- 2 学祭への熱い思い



舟木千絵
学部1年 B2クラス

- 1 JADE 講301でのライブ
- 2 初めての学祭 楽しみたいと思います!!!



坂井良祐
学部1年 C4クラス

- 1 卓球部 クレープ
- 2 大学の一大イベントですが、青春とは生まれながらに無関係なので、馬車馬の如く働きます!



濱村若葉
学部1年 A2クラス

- 1 女子アイスホッケー部 タビオカジュース
- 2 女子アイスホッケー部はユニホームがとっても可愛いです! かわいいユニホームを目印にタビオカジュースを買いに皆さん来てくださいます!



第35回 越秋祭

平成29年10月28日(土)～10月29日(日)開催

テーマ

「Thank you,アミーゴ(35)s! —君は一人じゃないよ—」

イベントスケジュール

10/28(土)

一般企画(模擬店等)
ミニ・オープンキャンパス
吹奏楽団コンサート等

10/29(日)

一般企画(模擬店等)
お笑いライブ
フラダンス公演等

学部1年生にとっては初めての学祭となりますが、どの部活もとってもおもしろそうですね! 今回取材した部活のほかにも、たくさんのお出し物があるそうなので今から学祭が楽しみです!!

- 茂木 健太郎 学部2年 自然系コース(理科)
- 栗林 和奏 学部1年 A2クラス
- 市川 彩乃 学部1年 B4クラス

編集後記

橋本悠希
学部3年
言語系コース(国語)

- 1 バドミントン 焼きうどん
- 2 この1年間、うどんを焼くことだけを考えて生きてきました。当日はうどんをどんどんと焼くぞん!



藤井章央
学部3年
生活・健康系コース(保健体育)

- 1 ストリートダンス部 ストリートダンス公演
- 2 4年生、大学最後のダンス公演お見逃しなく! 講堂でやります! お待ちしています!



ハンドボール部

自分たちの力で

私たち、ハンドボール部は、中学校や高校から始めた経験者がいることはもちろん、部員の半数以上は、初心者です。やったことのないスポーツをやりたいという興味を持ち、入部した部員がほとんどだと思います。個性豊かな部員がたくさんいて、とても楽しい部活です。

ハンドボール部には、監督やコーチはいません。そのため、自分たちの力で、チームを運営しています。キャプテンや経験者、上級生を中心に目標を決め、課題に応じたメニューを考え、練習に取り組んでいます。監督がいないということは、コートの外からの目がありません。よって、ビデオを見て選手同士で意見交換などを行い、更なる、技術向上を目指しています。

8月末に北信越大会の秋季リーグが行われ、男女ともに2部から1部に昇格することができました。日頃の取り組みが結果として表れ、嬉しい限りです。

また、このような成績が取れたのは、

選手の頑張りだけでなく、マネージャーが、選手をサポートしてくれたからです。頼りになり、可愛くて面白いマネさんの存在は偉大です。いつもありがとうございます。

今後の目標

1部のレベルは、とても高く、今の私たちでは、敵わない相手ばかりです。だからこそ、チームで同じ目標を持ち、ハンドへの意識、そして技術はもちろんチーム力も上げていきたいと思っています。男女とも来年の5月に行われる春季リーグでは、目指せ1部残留！です。

自分たちなりに頑張っていますので、応援のほどよろしくをお願いします。

卒業生や父兄の皆様の中で、ハンドに関わっている方がいましたら、練習相手として上教大ハンドボール部に声を掛けてくださるとありがたいです。お待ちしております！



DATA

平成29年10月現在
部員数/36人
(男子19人、女子17人)
活動日/火、木20:00~22:00
金 20:30~22:00
日 18:00~20:00
活動場所/体育館
活動実績/H29年度 北信越学生ハンドボール 秋季リーグ
男子 2部優勝
女子 2部準優勝
第20回クボセイ杯争奪新潟県ハンドボール選手権大会
女子 準優勝
【取材協力者】
学部2年 自然系コース(理科)
岩山 佳保里



子ども食堂スタッフサークル

新しくサークルを設立しました

子ども食堂スタッフサークルは今年7月に設立した新しい団体です。子ども食堂のことを多くの学生に知って欲しい、継続的に学生が活動に参加できるようにしたいとの思いからサークルを新設しました。上越市内、妙高市内にそれぞれ1ヵ所ずつある子ども食堂で、毎月1回開催される子ども食堂に運営スタッフとして参加し、子どもたちと一緒に遊んだり、食事をともにしたりすることが活動の中心です。また、子どもを対象にした学習支援活動も行っています。それぞれの活動に向けて毎週ミーティングを行い部員間の情報共有を行っています。子ども食堂の活動を主催する地域住民の方と深い関わりが出来ること、サークルの活動を一から創り上げられることが、この団体で活動することの楽しさだと思います。

サークルの活動で大切にしていること

子ども食堂スタッフサークルでは、「食」、「遊び」などを通じて子どもたちと関わり、学生一人ひとりが、活動に参加しながら子

もの姿を語り合い、その人なりの子ども理解を深めることを大切にしています。また、学年に関わりなく全員の意見や考えを尊重して活動を行っていくことも大切にしています。

今後の活動について

7月に大学公認サークルになり、まだまだ駆け出しの状態です。しかし、この不安定さを柔軟性、可塑性と捉えて前向きに活動を進めていきたいと思っています。今後も子ども食堂など地域の子育て支援活動に積極的に参加するとともに、部員を含めた学生向けに子ども理解に関わる公開勉強会や映画の上映会を行っていく予定です。私たちの活動へのご参加、ご協力を今後ともよろしくお願いいたします。



DATA

平成29年10月現在
部員数/26人
活動日/毎週火曜日、第1・3金曜日
活動場所/人文棟教室、最賢寺(上越市南本町)
活動実績/
子ども食堂(いちょう食堂、あいう食堂)への参加、上越市内の小中学生に対する学習支援活動
【取材協力者】
大学院2年 教育臨床コース
川村 修央



附属学校だより

上越教育大学
附属中学校



グローバル人材育成科
1学年ステージ2
「さまざまな仲間と臨機応変に関わる」
妙高ドキドキキャンプ全3回

生徒は3回のキャンプを通して、前回の経験を生かしたり、課題を改善したりして、たくましく成長していきました。そして、困っている仲間を声をかけたり、置かれた状況で最大のパフォーマンスを発揮しようとしたりする姿が随所に見られました。

今後も、アビリティ育成をねらいつつ、グローバル人材育成科の諸活動に取り組むことで、更に成長していく学年集団を目指していきます。



妙高アドベンチャーの様子



妙高アドベンチャーでクラスの団結力を高めました

1回目

7月13日、14日

内容: 学級ごとに活動、生徒が企画・運営したレク、宿泊棟に宿泊
ねらい: 自分や仲間のよさを発見する。

2回目

8月28日、29日

内容: 当日編成した仲間とオリエンテーリング、夕食野外炊飯、テント泊
ねらい: 自分の役割に責任をもち、誰とでも協力できる。



テント設営の様子



野外炊事でカレーを作りました



キャンプファイヤー

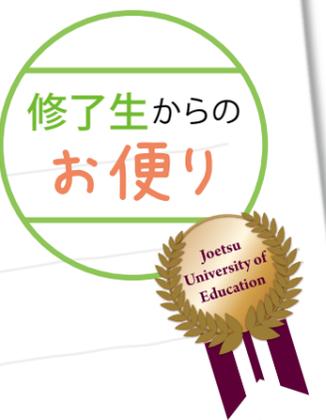


空き缶を使って炊飯

3回目

9月21日、22日

内容: 全ての活動メンバーを抽選で決定、オリエンテーリング、野外炊飯、テント泊
ねらい: いつでも、どこでも、誰とでも協力できる。見通しをもって行動する。



学び直しの場



大学院修了後、附属校で5年間、研究してきたことを活かして実践を行いました。大学院で学んだ一人一人の学びの過程を大切にすることは、附属校の研究と合致しており、とても役立ちました。その後、教頭職1年を経て、燕市教育委員会の指導主事として3年間、燕市の先生方とともに授業改善を

教職14年を経て、上越教育大学大学院で学ぶ機会を得ました。大学院では、私の専門教科である算数・数学を学ぶため、学習臨床コースの布川和彦先生のゼミを希望しました。当時、算数の学習で「割合」の理解が難しいことが指摘されていました。そこで、系統性の実感と割合の理解の促進を図るため、研究テーマを「統合的な授業における比例的推論の発達に関する研究」とし、「2本の数直線」をツールとした算数授業の改善について研究しました。在学中は、学会発表や修士論文作成など、布川先生からご指導いただきながら充実した日々を過ごすことができました。

大学院修了後、附属校で5年間、研究してきたことを活かして実践を行いました。大学院で学んだ一人一人の学びの過程を大切にすることは、附属校の研究と合致しており、とても役立ちました。その後、教頭職1年を経て、燕市教育委員会の指導主事として3年間、燕市の先生方とともに授業改善を



佐藤 満
(さとう みつる)

新潟県新潟市出身（現在は見附市在住）。平成20年3月修了後、新潟大学教育学部附属長岡小学校に勤務。その後、南魚沼市立北辰小学校教頭を経て、燕市教育委員会に指導主事として勤務。現在は、長岡市立希望が丘小学校に教頭として勤務し、校訓である「希望 友愛 不屈」の実現を目指している。

進めました。勤務3年目には、全国学力・学習状況調査で、市内全小中学校全ての教科の平均点が、全国を上回るという目標を達成することができました。学校・家庭・地域・行政が力を合わせたことの重要性を改めて実感しました。

今年の4月から、長岡市立希望が丘小学校に勤務しています。算数の授業は担当していませんが、創立40周年記念事業や各学年の総合学習の手伝いなど、学校と家庭や地域のパイプ役として、日々奔走しています。

私は、子どもはもちろんですが、大人にとっても学び直しは大切だと思います。上越教育大学大学院はそれをサポートしてくれる素晴らしい場です。今ある教職スキルをさらに高めたい方に、ぜひお勧めします。

上教大 なんでも掲示板



挨拶をする梅野理事兼副学長

新潟県教育委員会、新潟市教育委員会との連携推進協議会を開催

7月21日(金)、新潟市内のホテルを会場として、新潟県教育委員会、新潟市教育委員会との連携推進協議会を開催しました。

この協議会は、「教員の資質・能力及び新潟県の教育力向上を図ること」を目的として年2回開催しているもので、今回で15回目となります。

当日は、梅野理事兼副学長の進行により、まず教育委員会と本学が連携・協働し、現在取組を進めている各種事業等の状況や今後の計画について、情報の共有が行われました。その後、協議事項である本学の改革と教育委員会との連携についての活発な意見交換が行われ、有意義な協議会となりました。



卒業生(現職教員)の体験談発表



個別相談コーナー(在学生)

オープンキャンパスに多数の高校生

8月4日(金)に、高校生やその保護者など進学希望者を対象にしたオープンキャンパスを開催し、811名が参加しました。

全体会では、大学概要や入試情報の説明に加え、卒業生(現職教員)と在学生による体験談の発表がありました。また、体験授業や個別相談コーナー、キャンパス内にある学生宿舎や附属図書館などの施設見学も実施しました。

参加者からは、「周りが自然に囲まれており、教育者となるための学びを得るにはとても良い環境で、ぜひここで学んでいきたいと強く思いました。」「在学生の話がとても良かった。教員を目指そうという意欲がより高まりました。」という感想が寄せられました。

「上越教育大学基金」ご寄附のお願い

上越教育大学では、法人の財政基盤の強化を図るとともに、独自の学生支援や教育・研究活動支援等の諸事業を推進し、本学の教育・研究機能の強化と魅力づくりに努めることを目的に「上越教育大学基金」を設置しています。

企業、団体、個人のみならず皆様からのご支援をお願い申し上げます。

- | | | | | |
|----------------|-----------|-----------------|-----------------|---------|
| 基金が行う事業 | ○学生支援事業 | ○国際交流支援事業 | ○教育研究支援事業 | ○地域貢献事業 |
| | ○附属学校整備事業 | ○キャンパス環境等整備支援事業 | ○その他本法人の諸活動支援事業 | |
-
- | | |
|-------------------------------------|--------------------------------------------------------|
| 税法上の優遇措置 | 寄附の申込み |
| (個人の皆様からのご寄附)
所得税控除等を受けることができます。 | 振込用紙によるご寄附 / 上越教育大学基金のホームページ「寄附申込フォーム」より、振込用紙をご請求ください。 |
| (法人の皆様からのご寄附)
寄附金の全額を損金に算入できます。 | 現金によるご寄附 / 現金でのご寄附を希望される方はお手数ですが、お問い合わせ先までご連絡ください。 |

お問い合わせ先 上越教育大学総合交流推進室(上越教育大学広報課内)
〒943-8512 上越市山屋敷町1番地 上越教育大学事務局(2階)
TEL 025-521-3292 FAX 025-521-3627 E-mail kikin@juen.ac.jp

平成29年度 上越教育大学大学院同窓会 評議会・懇親会のご報告



平成29年7月8日(土)、上越市内の教職員互助会館「高陽荘」を会場に、大学院同窓会の評議会と懇親会を開催しました。評議会には、参与の川崎直哉学長、直原幹副学長のご臨席のもと、同窓生でもある梅野正信理事兼副学長、岩手県・山形県・宮城県・群馬県支部の各評議員、及びグローバル・ICT・学習研究、理科、美術コースの院生評議員、また同窓会の連携・交流を担当頂いている総合交流推進室参事役、事務局を担当する学内教員(理事)等にもご出席を頂きました。

議事に先立ち、学長による大学の近況と出席者の自己紹介、各支部の活動状況が報告されました。議事では、会長の井澤文夫先生、副会長の高橋雅史先生、牧口典子先生の継続と8人の理事、2名の幹事、特別会員1名の承認、28年度の事業及び会計報告と29年度の事業計画と予算が承認されました。特に、各支部活動助成として、28年度事業に北海道・山形県・群馬県・静岡県支部の事業に助成を行ったこと、岩手県・宮城県・静岡県支部に学内教員を講師として派遣したこと、29年度事業として北海道と宮城県支部に学内教員を講師派遣することなどが報告されました。

また、大学の創立40周年に向けた記念事業へのアイデアがブレインストー

ミングで話されました。例として、同窓生への研究助成の継続や、学生募集のPRを兼ねてラジオで番組を作成する、上越・長岡の花火大会で上教大スターマインを打ち上げるなどが出てきました。この件については、同窓生に広くアイデアを募ります。加えて、懇親会では相互の思い出話に花が咲きました。最後は、恒例の『高田の四季』の合唱で締めくくりました。

なお、大学改革に伴う専攻コースの再編や同窓会創設当初からの会員の高齢化、転居異動による新規修了生名簿の確認が難しくなり、支部会開催の案内が届きにくくなっている問題への対応なども話し合われました。

修了生の住所等をお知らせください

転居・転職・結婚等により個人情報の変更があった場合は、お知らせください。

詳細については、公式ホームページをご覧ください。

上越教育大学 同窓会 検索

お問い合わせ先 上越教育大学大学院同窓会事務局
E-mail dousoukai@juen.ac.jp

「多様な教員の養成を目指して」

読書の秋、スポーツの秋、食欲の秋、秋は身も心も広がる爽やかな季節です。皆さんは秋を満喫していますか。この爽やかな秋に、本学は、様々な改革を推進しているところです。例えば、国の方針では、現在すべての都道府県に設置された教職大学院を拡充して、更に教育実践力を身につけた教員を養成しようとしています。本学の大学院もその方針に沿って、すでに設置されている教職大学院をさらに拡充する方向で検討を行うとともに、学部については、小学校英語やプログラミング教育など喫緊の課題に対応できるようなカリキュラムを取り入れて行きます。また、子供たちの数が減り、それに伴い教員採用数が将来減少する見込みであること、教員志望者の割合が教員養成系大学・学部としては若干低いことなどが指摘され、各大学でそれぞれ対策を検討しているところです。

本学の歴史は約40年と長くはありませんが、教員養成系大学としてその評価は高く、その特徴は実践力のある教員の養成、現職教員の再研修など大学

院が大きな役割を果たしてきたことにあります。特に、大学院を長年支えてきた修士課程は大きな成果を挙げ、教育現場で中心的な活躍をしている修了生が多く見られます。このため、これから拡充する教職大学院と、これまでの実績がある修士課程を教員養成の両輪と考え、大学院全体として多様な教員の養成を目指す所存です。

『春よ来い 早く来い あるきははじめた みいちゃんが 赤い鼻緒の じよぼはいて おんもへ出たいと 待っている』この歌は、本県糸魚川市出身の相馬御風によって創られたものです。雪国に住む人々の春を待つ気持ちが深く感じられます。長く厳しい冬を過ぎた人々だけが感じるこのことのできる春の訪れを喜ぶ気持ち、そして、春を待ち望む心。厳しい試練があればあつただけ、大きな喜びが待っていることを、皆さんも今まで経験されてきたことでしよう。本学としてもさらに大きな飛躍を遂げられるよう改革を推進する所存ですので、ご理解とご支援を頂きますようお願い申し上げます。



学長 川崎 直哉

インタビュー 大学院で輝く人

大学院3年
特別支援教育コース
吉池 直樹さん

入学のきっかけ

— 私は耳が聞こえません —

私が在籍していた聾学校高等部の担任の先生は、聴覚障害のある方でした。その先生は、聴覚障害というハンディキャップがあるにもかかわらず、情熱のある先生で、私たちを導いてくださりました。その先生の姿を見て、私もあのような先生になりたいと思ったものの、他の夢があったため、教育学部ではない大学に進学し、地元の民間企業に就職しました。職場では障害について配慮していただき、特に不満もなく恵まれた環境でした。しかし、どこか心に引っ掛かるところがありました。ある時、

「本当にこのまま仕事を続けていいのだろうか」と考えるようになりました。そして葛藤の末、「たった一度きりの自分の人生なのだから後悔しない生き方をしよう!」と思い、高等部の時から思い続けてきた先生になるために、本学の教育職員免許取得プログラムにて勉強することを決めました。

カリキュラムの充実

本学の特別支援教育コースは講義の他に、演習、臨床実習、授業後のカンファレンスなど、特別支援教育について深い学びができるカリキュラムが組まれていることが魅力です。そうした充実した日々を送るうちに、

思い続けてきた先生という道がより確かなものになりつつあることを感じています。先生として、出会うだろう子どもたちのために、さらなる専門性を追求していきたいです。

さいごに

私は、今この道を行って良かったと思います。やりたかったことを学べる環境にいられることを大変ありがたいことだと思っています。就職しているにもかかわらず、「先生になりたい」という一大決心を暖かく見守ってくれた家族、指導教員、同期、周りの方々に感謝し、残りの院生生活を有意義なものになるよう頑張りたいです。



インタビューを終えて

吉池くんの聾学校時代の話は当事者の経験としてとても貴重です。聾学校に通う児童生徒の目線に近づくことができ、新たな視点を持つことができます。吉池くんと院生活を共にできたおかげで学びが深まりました。

■ 聞き手・文(写真右)
大学院3年 特別支援教育コース
志賀 紀恵

免P = 教育職員免許 取得プログラム

本学大学院入学者で、教員免許を持っていない方や他校種、他教科の教員免許を取得したい方を対象に、長期履修学生制度を利用し、2年分の学費で3年間在学し、大学院の教育課程と学部の教員養成カリキュラムの単位を取得することにより、教員免許状取得の資格を得ることができるプログラムです。



アンケートにご協力ください

公式ホームページにおいて本誌に関するアンケートを実施しています。左のQRコードを読み込むことで、携帯端末からもご回答いただけます。QRコードは(株)デンソーウェブの登録商標です。